



みんなでワクワク  
なんでもチャレンジ  
♪  
みんなで頑張る  
みんなっ子

# 全国学力・学習状況調査の結果について【その1】国語

4月17日(木)に実施した全国学力・学習状況調査は、全国の小・中学校6年生と中学校3年生を対象として行われたもので、小学校の内容は国語、算数、理科と児童の生活・学習状況に関するアンケート(児童質問紙)でした。6年生には既に調査結果を配付しましたが、本校でよくできたところ、あまりできなかつたところを具体的な問題とともにお示しますので、ご覧いただければと思います。

3  
木村さんの学級では、言葉の変化について学ぶために、みんなで「資料1」を読みました。そして、「資料1」を読んで一人一人が疑問や興味をもつたことについて調べ、分かったことをもとに考えをまとめることになりました。「資料1」をよく読んであのの問いに答えましょう。

まとめることにしました。【資料1】をよく読んであとの問い合わせに答えましょう。

言葉は、年月とともに変化していくものです。かつて規範的であると考えられていた言葉の形や意味が、現代においては通用しなくなっているたり、使い方が変わっていたりする場合は少なくありません。  
ですから、意味や使い方に搖れが生じている言葉について、「この使い方だけが正しい」と決めつけるのは短絡的ともいえるでしょう。<sup>(1)</sup>この本を読むとお気づきになると思いますが、文化庁国語課では、言葉の意味について「正しい」「誤り」といった判断をせず、代わりに、<sup>(2)</sup>「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方にどめています。言葉の正誤を軽々しく決めることはできないと考えるからです。  
とはいっても、どんな言葉を使ってもいい、というわけではありません。<sup>(3)</sup>コミュニケーションの使い違いを放置しておくわけにもいきません。

(文化庁国語課「文化庁国語課の勘定いしやすい日本語」による。)

※1 「規範」……………判断したり行動したりするときの手本。

※B「文化守」…………文化や芸術を広める仕事や、文化財を守る仕事などをする。

卷之三

二 木村さんは、「資料1」を読み、言葉は年月とともにどのような変化をするのか調べたいと思いました。そこで、次の「資料2」と「資料3」を読み、分かったことをあとの「木村さんのメモ」に整理して、います。これらをよく売込んで、どちら(1)と(2)の問い合わせに答えましょう。

資料2

「あたりこ」は新しい形

とてもできる? できない?

「ふん、いき」ということばを「ふいん、き」と言つう人が多くなりました。こう言つう、「たいへんだ、日本語がこわれてしまふー」と思う人がいるかもしれません。でも、心配しないでください。にたようなことは、昔からよくあることです。「できればかり、まだ古くない」という意味で、私たちは「新しい」と言ひます。でも、大昔の奈良時代には、「あらたし」と言つてました。今でも、「新しく」という意味で、「あらたに」と言つでしよう。

「あらた」は、大昔から使われてきました。ところが、次の平安時代には、「あらたし」が「あたらし」になりました。「たら」と「ら」の順番が入れかわっていますね。つまり、「あらたし」に比べれば、「あたらし」は新しい形です。それが変化して、今では「あたらしい」になりました。

(飯間浩明、「日本語をつかまえろ!」による。)

全国の正答率と比べて、本校の正答率が高かった問題、低かった問題については、次のページです。併せて、正答率が低かったことの分析や、今後の対策についてもお示します。上記の問題は、次ページの問題につながる部分です。

